

BY KOUICHIRO GOSHO NAKED EYES.

CHALLENGER

野中 明

紫紘株代表取締役社長

シャープな頭脳をフルにいかし
道を開拓する生粋の京男。



野中 明

●プロフィール 1961年7月10日京都市生まれ、同志社大学法学部卒業後、74年に紫紘に入社。77年に野中織物株設立兼取締役、シャープに入社。シャープテクニクスを統括、国内外で活躍中。家族は妻と子供2人。

祇園は高台寺、粋な数寄屋造りのお座敷に野中氏はあらわれた。西陣の天皇といわれる山口伊太郎氏を父にもち、沈滞気味と囁かれて久しい西陣に新風を吹き込んだ

自分自身、それ以上でもそれ以下でもない

御所 「京都も西陣ももうあかん」という声を頻繁に聞くなか、「紫紘の野中はおもしろい」とよく耳にするのですが、そんな気鋭の方がこのインタビュウを受けて下さったのはどんなわけがあるんでしょうか。

野中 メディアの力はやはり強大であるという点をふまえたうえで、これから重要視されてくるのはローカルメディアだと考えているんです。同じ地域で同じ時間を共有した人でないと理解できない話題が一番面白いのであって、どこでも誰にでも得られる情報には魅力がないと。それにわかりきったことをわかりにくく言うのもひとつの方法やと僕は思うんです。端的に指摘することには皆飽き飽きしている。てっとりばやい・わかりやすい、の時代は終わったと思いませんか。

御所 ひとつのものを複合的に、2倍も3倍も楽しもうという傾向

織物界きってのホープである。長身で威風堂々、眼光鋭い切れ者との噂。超多忙の過密スケジュールをこなすエネルギーシユマンからどんな楽屋話が聴けるやら…。

はあるでしょうね。

野中 そうで、行かんとわからん、居てんとわからんローカリテイがモチベーションの重要なポイントになってきている。

御所 例の「カルトQ」なんてその最たるもの。どこそこの店のタイルの色や数は？なんて、絶対に行かないとわからないものね。

野中 昔、アンアン、ノンノで始まった今は山ほどある雑誌のイラストマップ見て、超有名観光ポイントに押しかけるなんてのはすでに遠の昔。今やインターナショナルに対してインターローカリテイ、ローカリテイが無い話題など全く面白くない。インタビュウを受けたのは貴誌の立派なローカリテイの為と思ったわけです。

御所 野中さんは織物屋さんから自動車屋さんの経営まで様々な顔を持っておられるんですが、職業は？と聞かれたらなんと答えられていますか。

野中 時間的には紫紘の社長業が圧倒的な割合を占めてますから、基本としては織物屋です。ただ以前からいろんなことをやってきて、それぞれに各メディアで紹介されてきましたけれど、近ごろようやく関連性を見出しました。

御所 ほう、どんな？

野中 女性が美しくすばらしくなるという社会現象のために、桑畑から車まで、すべてイメージしてやっているのだと。

御所 なるほど。私もいろいろやっているんで、いつも返答に困ってるんですよ。

野中 私も名前しか書いていない

きもの十コンピュター――？

御所 きものを作るといふきわめて伝統的な作業にコンピュターを導入した張本人に、そのいきさつをお伺いしたいのです。野中さんは西陣を開放したというか、システムエンジニアリングの部分で大きく方向を変えたように思いますが。

野中 私は家庭教育以外はずっと、工業化社会に役立つ人間にな



名刺を作ったことがあるんです。分類されるのがイヤで、それをひたすらすりぬけたいがために「解り易さ」という点では不満は残りますが、自動車屋をやったんです。(笑)

御所 収入の如何や、主たる仕事、知られている知られていないに関わらず、当人が一番充実している気持ちのいい時々が肩書きでいいやないかと思うんですけど、どうも他人はカテゴライズしたがる。

企業の本長がミントを作る時が一番楽しければミント屋さんでいいじゃない？堂々とそう言える時代が来ると思いますよ。

るべく学校教育を受けてきたんです。その20、30年間に様々な産業がコンピュターの進出で随分影響を受けてきました。ただ織物業の場合はコンピュターの進出で仕事が変わったわけではなくて、多彩なノウハウをプログラミングしてデジタルイズしていっただけ。そのシステム作りをもっとも早く手がけた人間の一人ではあると思いますが、本質的には何も変わっていないんですよ。

御所 パンチカードがフロッピーになっただけだ。

野中 そう、プロセスが変わっただけ。生糸を入れたら帯が出てきた。さらに日本で入れたらタイで中国で出てきた。

御所 それは野中織物のアジア戦略だったわけですか。



野中 絶対に違います。最初の目的は経験のマニュアル化だったんです。10年の熟練経験は織物業界にとっても貴重なものだから。システムを稼働してみても、職人の仕事と同じことができるようになった。そこでふと考えたんです。これは別に西陣でなくてもできるな、と。

御所 そのへんが超西陣だよ。どうも西陣織は西陣で作らんとあかん、という想いが強すぎるもの。

野中 確かに日本でも桑を栽培することはできますが、タイではその10倍も早く桑が成長します。湿度もあるし、どんよりしてるので織物作りには最適。自然を改造するなんて愚の骨頂。自然と戦えば負けても勝つてもメリットはない。だから自然をうまく利用しようと考えただけなんです。これを私は最適地主義と言ってるんですが。

御所 日本じゃ土地も人件費も高いし。

野中 ええコストが高くなりすぎて、今や西陣は西陣織の生産最適地ではないんです。人もあまってる、娘をじゃばゆきさんにでもしなければ食べていけない貧しい村

独自の国、ニッポン

御所 仕事とはいえ、いろんな国に行かれるのは楽しいでしょう？

野中 私はローカリティの薄い国やすぐに変化する国には興味ないんです。そのポイントやタイには濃いローカリティが脈々と生きている。日本もそうだから同じレベルで話ができますよ。たとえば英語が公用語になると固有の文化は失われてしまう。英語の歌舞伎なんて我々には味気ないですよ。日本が独特なのは英語が話せないから。ボーダレスの時代だからこそ、自身の中にしっかりとしたローカリティを持ち続けねばならないのだと思えます。

御所 あるがままの部分ユニークなわけで、ニアイコールからイコールを求めていくようでは存在価値はないですよ。

野中 京都という町もいろいろ言われているけれども、自主的に何かをするのはやめたほうが良いと思ってるんです。

ネームだけに頼るのではなく、本当に良い物ができるのならば、そのほうがよほど消費者には親切ですよ。

御所 あまり気負わないほうが良いと？

野中 建物ぐらい自由に建てたら良い。これまでの京都の歴史が物語るように、そぐわない建物だったら誰かが壊しに来るのだから。御所 それは非常にユニークな意見ですね。最後に今の若者にメッセージをください。

野中 脱工業化時代といわれて久しいのに現実はまだ変わってない。もっと良い意味で学校教育を抜け出して知性や教養を身につけ、自分自身でがんばらないと。一人一台力ローラはあたるかもしれないけど、それだけやね。

御所 フェラーリは乗れない。ただ、今の学校教育の影響から抜け出すのは至難の技でしょうね。

野中 でも難しいと思えることを克服すると、逆に自信につながりますよ。

御所 お互いの経験からして、ですな。



御所光一郎

「クラブフェイム」プロデューサー。野中明氏より、根も葉もないことをあるようにする仕事がある。本物をオリジナルを壊さないように伝える仕事がある。どちらもこなせる人がプロ。本物と偽物の違い、取扱の方法を差を瞬時に察知し、正しく扱うのが本物の人。彼はそんな人である。